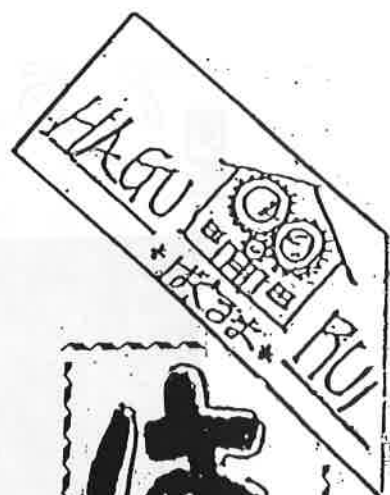


届くか 仲間の声

行動する仲間たち パート2



はぐるま

No. 11
2005年7月7日
はぐるまの会
発行：事務局

はぐるま

最低の生活を保障する
ことが、「益」になる
のか、市益負担。

七月五日 みんなで日
比谷へ行きました

このところ「はぐるま」
通信のトップはいつもこ
の記事から始まり、いつ
も叫び続けてきました
今が最後の正念場。
郵政も山場を迎えていま
すが、「障害者支援法」も
いよいよ審議再開されま
す。最後まで、頑張りま
しょう。

7月5日(火)、日比谷公園内の野外音楽堂
で行われた緊急大行動集会に、はぐるま
として仲間23名と職員5名の大人数で参加
してきました。

7月1日から衆議院厚生労働委員会にて審
議が再開され、今月初旬にも法案が採択さ
れるのではとの話も出ている中、非常に関
係者の関心も高く、7千人の参加目標のと
ころ1万1千人の参加者で会場は埋め尽く
されました。

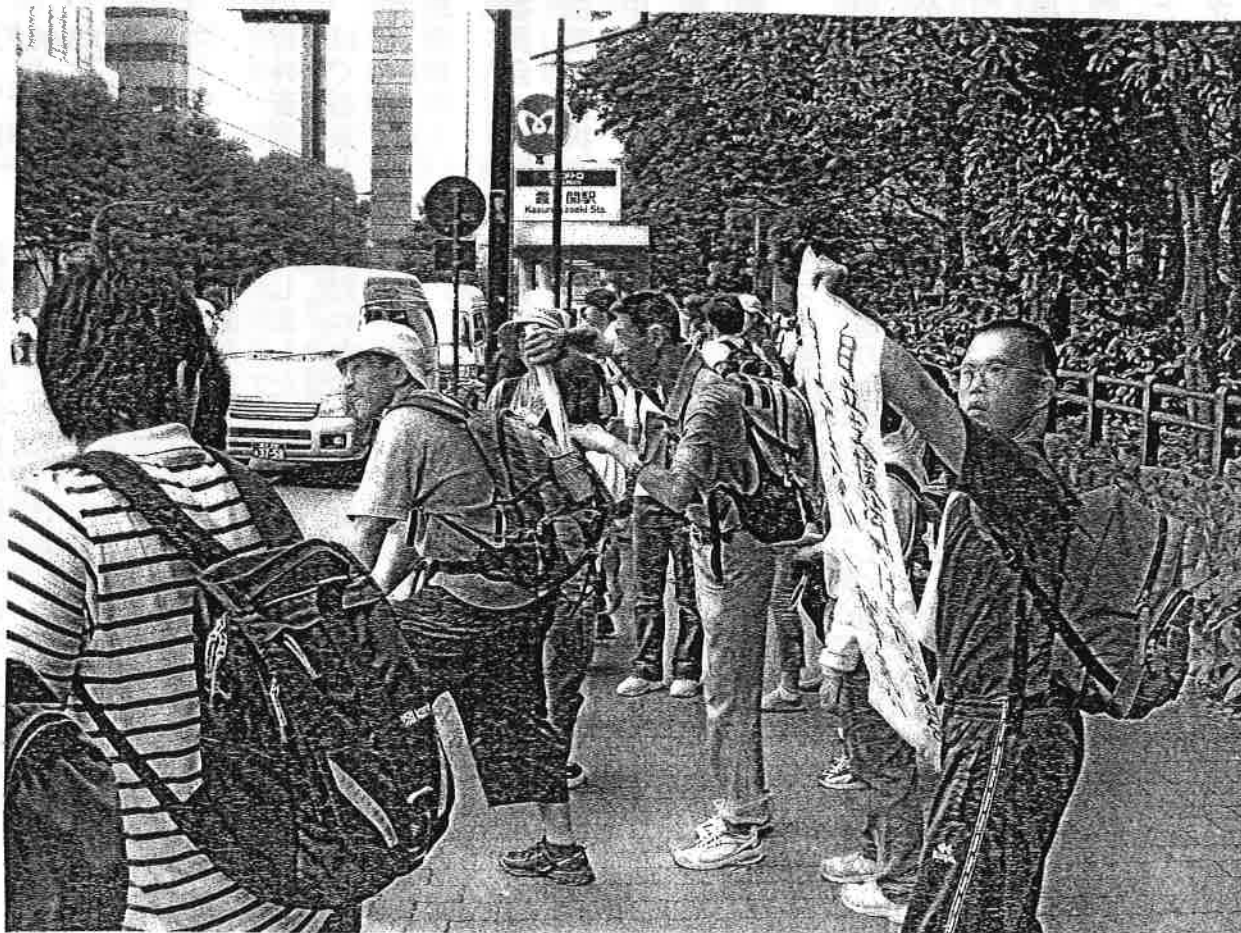
内容は、全体集会(経過報告やアピール採
択など)、国会へデモ(日比谷公園から国会
まで2kmのデモ行進)の2つが中心でした。
梅雨の蒸し暑い中、会場では様々な方言が
飛び交っていたり、多くの幟旗が立ち並び、
北海道から沖縄まで全国からこの問題に対
して、多くの仲間達がいても立ってもいら

れない、何か自分達にできることはないか
という必死の思いで集まってきていること
が伝わってきました。

そんな熱気むんむんの会場の中、はぐるま
の仲間たちも当事者の一人として集会に参
加しました。初めて集会に参加する仲間た
ちだったので、自立支援法について理解が
難しい様子でした。集会後のデモ行進まで
参加する予定でしたが、残念ながら時間の
関係で参加できませんでした。

仲間たちには内容が難しい集会だったと思
いますが、1万人以上の熱気溢れる雰囲気
の中、自分達と同じ立場の仲間たちが、一
生懸命訴えている様子を実際に見たことは、
きっと何かを感じてくれたと思っています。
仲間達の生命や暮らしに重大な影響をあた
える障害者自立支援法。自分達の思いを行
動で示していく運動が実際に審議を遅らせ
ることに繋がっています。障害当事者を
含めた納得のいく慎重な審議をして欲しい、
その強い思いを訴えていくことが国会を動
かすことになるのです。(倉科記)

7.5 1万1千人の緊急集会



関連して

しいの実会・なごみ会・みのり会・はぐ
るまの会・が合同で「障害者福祉の充実を
求める陳情書」署名活動に取り組んできま
した。それに対する審議が六月二十六日に、
七十名以上の傍聴者がいる中行われ、はぐ
るまからも三名の傍聴があり、推移を見守
りました。

陳情書

- 一、利用料について現状を上回らないよう
支援策を策定してください。
 - 二、市営・民間バス特定乗車証の現行制度
を、なくさないで下さい。
 - 三、応益負担の導入については、所得保障
のない中で、認めることができません。
国として予算の拡充を求めるよう、意
見書を提出して下さい。
- 一、二に関しては、趣旨採択
一番もめたのが、三番、法案に反対する
内容ですから、自民党は賛成できないと言
うのも当たり前。しかし、意見書だったら

国へ提出していいのではないかという意見
が大半を占め、川崎市議会として、「障害者
自立支援法案に関する意見書」を提出する
事になりました。

以下文書抜粋

(前文省略) 国におかれましては、障害者
の生活実態を踏まえ、法案の審議にあたっ
ては、次の事項について特段の配慮をされ
るよう強く要望する。

- 一、利用者負担については、低所得者に
対する特例措置を講ずるなど、過大
な負担にならないようにし、一定の
経過措置を設定すること。
- 二、障害者の就労と生活の場を確保する
ための経済基盤等を拡充すること。
- 三、町村が新制度を周知し準備するた
めの十分な期間を確保すること。

★内容は柔軟なものです。一応採択され
国会に出せたことは前進だと思えます。
たくさんの方の署名と傍聴人の多さに議会を動
かしたことは確かです。

署名のご協力ありがとうございました。

はぐるま全体会のお知らせ

七月十四日(木) 多摩市民館

(多摩区役所内大会議室3F)

◎午前の部

仲間自治会総会

仲間交流をして一年、新しい仲間と新
しい労働の取組みをしてきました。働くこ
とに意欲を持っている仲間達、働くことで
伸びあうことを喜びとする仲間集団。
そのことを評価し合う会でもあります
そんな晴れがましい仲間の姿を是非ご覧下
さい。

◎午後の部

みんなで考えよう

「障害者自立支援法」

というテーマで、外部から発言者を招き、具体的な生活に当てはめて、分かりやすく提案します。

- ・ 医療費負担が来年？になりそう
- ・ ホームへの負担が来年一月からもう知らなかったでは済まされないとこまできました。

活発な意見交換ができると良いと思います。外部関係施設にも呼び掛けをしました。保護者の皆様もたくさんの人に呼び掛け、当日一緒にしてください。

たがやしクラブの土への挑戦

梅雨の合間のいずみホーム庭にモグラが現れ、あちこちを徘徊。派手に穴を掘り歩き回った痕跡に、仲間たちも興味を抱いたようです。庭の土を耕してから四年目にし

てようやく生命が甦って、ミミズや多くの微生物群が住み始めています。大好物のミミズを食べに、モグラはやって来るのです。畑を始めた頃は、草も生えない死んだ土と石だらけ。小沢城跡から何度も仲間たちは腐葉土を担いで来たり、近くの神社から落ち葉を運んだり、多摩川の土手へ行き、砂利を一輪車で運び、土日のたがやしクラブは、土作りばかり。五年間は「息を吹き返すまで、頑張ろう」をスローガンに、堆肥場も作って、片平のホースクラブから馬糞をもらい運び込みました。近所の方々への異臭の配慮をするために、無臭に近い状態へもっていくのに、近くの畳屋さんから畳をもらい堆肥作り。一言で有機栽培がよいといいますが、大変な労力と知恵が要ります。昨年は虫との戦いでしたが、今年からは作物自身の力で虫と共存しながら、プロッコリー・ジャガイモ・ナス・ゴーヤ・トマトが見事に育っています。今年のカマキリが多く発生するでしょうし、すずめが頻繁にやってきます。食物連鎖の小宇宙がい

ずみホームの庭にあるのです。連鎖の仕組みは人間関係にも共通していますし、何が一番重要なのか焦点を当てそれに向かって辛抱強く行動することではないでしょうか。虫が来たから殺虫剤・肥料がないから化学肥料では、その場限りの対症療法で、正しい連鎖(はぐるま)は生まれません。

いずみの畑が軌道に乗るのはあと一、二年はかかるでしょうが、あきらめずに仲間たちと共に進めていきたいと思えます。最近、生田のあおばホームの近くにも畑を無料で借りることができました。作物栽培は近所の方々の知恵をかりながら、地域を巻き込んで活動できるよう計画中です。

(たがやしクラブ中山記)

読んでください

先月号で譲りますコーナーで紹介した寄附の品。三面鏡・DVDプレイヤー等希望者があり若干の収入がありました。法人に寄附をします。今後とも情報を提供しますので、ご協力お願い致します。